

平成31年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査結果及び対策
[平成31年4月調査]



令和元年11月
鹿児島市教育委員会

目 次

I 平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方	1
II 平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要） について.....	2
III 平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」結果正答率分布グラフ、 課題、改善策.....	4
IV 学力調査分析（国語、算数・数学、英語）	
1 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について.....	5
2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について.....	9
3 調査の結果から見える本市外国語科（英語）教育の課題について.....	14
4 正答数分布グラフ.....	18
V 児童生徒及び学校に対する質問紙調査＜抜粋＞.....	19
VI 全国学力・学習状況調査と鹿児島学習定着度調査における児童生徒質問紙調査の 結果.....	27
VII 学力向上について.....	30

I 平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方

本調査の結果及び対策は、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査における鹿児島市に
関係するものです。ついては、各学校において、本冊子を活用し、本市全体の状況を把握するとともに、
全市的な傾向との比較・分析などを通して自校の課題を明確にし、今後の個に応じたきめ細かな指導や
問題解決的な学習活動など、教員の指導方法の工夫や児童生徒の学習状況の改善を図ってください。

1 本報告書の構成について

概要は、次のような構成になっています。

- | | |
|-----|---|
| I | 平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査結果」及び対策の見方 |
| II | 平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について |
| III | 平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」結果正答率分布グラフ、課題、改善策 |
| IV | 学力調査分析（国語、算数・数学、英語） |
| 1 | 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について |
| 2 | 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について |
| 3 | 調査の結果から見える本市外国語科（英語）教育の課題について |
| 4 | 正答数分布グラフ |
| V | 児童生徒及び学校に対する質問紙調査（抜粋） |
| VI | 全国学力・学習状況調査と鹿児島学習定着度調査における児童生徒質問紙調査の結果 |
| VII | 学力向上について |

2 本概要の活用について

- (1) 調査の目的や内容、各教科の平均通過率、質問紙調査の結果、今後の対策等について知りたいとき
「II 平成31年度（令和元年度）『全国学力・学習状況調査』結果（市の概要）について」（2ページ）を御覧ください。調査の目的や調査内容、各教科の平均正答率、質問紙調査結果において特徴的なもの等について説明してあります。
- (2) 本市の各教科の平均正答率別の割合や今後の改善策等について知りたいとき
「III 平成31年度（令和元年度）『全国学力・学習状況調査』結果正答率分布グラフ、課題、改善策」（4ページ）を御覧ください。平均正答率を5段階に分け、児童生徒の分布状況をグラフにしています。改善策等は、本市の学力向上施策や各教科及び全体で重点的に取り扱うべき項目を示しています。
- (3) 本市の各教科の課題や改善のポイント等を知りたいとき
「IV 学力調査分析」（国語5ページ、算数・数学9ページ、英語14ページ）を御覧ください。
小・中学校における課題、全体を通して特に課題となった設問の分析と対策を説明しています。
改善のポイントについても、小中共通や小学校、中学校別に説明してあります。問題別調査結果において、各問題の正答率、無解答率に貴校の状況を記入できる欄を設けてありますので、活用してください。また、各教科ごとの正答数分布グラフも御覧ください。分布の状況などを見ることにより、詳しく集団の状況を把握することができます。
- (4) 児童生徒の学習状況を知りたいとき
「V 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉」（19ページ）を御覧ください。
児童生徒に対する質問紙については19ページから、学校に対する質問紙については22ページから御覧ください。「基本的な生活習慣等に関すること」、「学習習慣等に関すること」等のカテゴリーにまとめています。本市の特徴的なものを、関係付けられるカテゴリー別に示すことにより、本市の小・中学校や児童生徒のよい点や課題等について捉えやすくなりました。
また、本市の「よく行った」、「どちらかといえば行った」等の肯定的な回答をした割合と、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合の二つの数値を示し、全国との比較をしています。各学校の結果と比較できるように、表に貴校の結果も記入できる欄を設けています。既に詳細な分析は各学校で進められているところですが、是非、貴校のよい点や課題等を記入していただき、貴校の状況を確認してください。さらに、各カテゴリーごとに設けた□の枠内には、貴校の「分析・対策」を記入することにより、今後の取組を明確にしてください。
「VI 全国学力・学習状況調査と鹿児島学習定着度調査における児童生徒質問紙調査の結果」（27ページ）で、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査と平成30年度鹿児島学習定着度調査における同じ質問の結果を比較しました。鹿児島学習定着度調査実施時から、全国学力・学習状況調査実施時までの児童生徒の回答の推移を見ることができます。
- (5) 授業改善について知りたいとき
「VII 学力向上について」（30ページ）を御覧ください。
今回、調査の行われました教科について、平成29年度に告示された新学習指導要領での「教科の目標」と「学習指導を進めるための留意点・配慮事項」を掲載しました（平成31年度「初任者のための教育実践の手引」（鹿児島市教育委員会）より抜粋）。
「平成30年度鹿児島学習定着度調査結果及び対策の『VI 今後の対策—主体的・対話的で深い学びを実現するために—』（鹿児島市教育委員会）」も併せて活用してください。

Ⅱ 平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要） について

令和元年度の本市の結果は、以下のとおりです。
本調査結果は、学力・学習状況の特定の一部であることを踏まえて御覧ください。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 上記のア、イの取組等を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数			実施児童生徒数		
		本市	県(位)	全国(位)	本市	県(位)	全国(位)
小学校	6年生	77校	490校	19,263校	5,295人	14,256人	1,028,203人
中学校	3年生	39校	214校	9,513校	4,834人	13,324人	938,888人

(3) 調査の内容

- ア 教科に関する調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生）
国語、算数・数学、英語（中学校のみ）
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおり。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
 調査問題では、上記の①と②を一体的に問う。
- イ 質問紙調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生、学校）
生活習慣や学習環境等に関する調査

(4) 調査日

平成31年 4月18日（木）

2 教科に関する調査結果

- 平均正答率（%）・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率

学校種	小学校		中学校		
	国語(14)	算数(14)	国語(10)	数学(16)	英語(21)
本市	68	67	73	61	58
県	66	65	70	57	53
全国	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0

全国を上回った教科は、小6の国語と中3の数学と英語である。
算数と中3の国語は、全国とほぼ同じである。

3 質問紙調査結果（児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋、単位は%）

(1) 児童生徒に対する質問 【質問数 小学校58問 中学校69問】（質問文は一部省略）

将来の夢や目標を持っていますか ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	87.0	72.9
	県	87.9	72.6
	全国	83.8	70.5

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか ※ 「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	69.8	53.8
	県	70.8	53.4
	全国	71.5	50.4

国語、算数・数学、英語の勉強は好きですか ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	国語	本市	60.2	62.6
		県	59.8	61.5
		全国	64.2	61.7
	算数・数学	本市	72.3	61.1
		県	73.1	58.8
		全国	68.6	57.9
	英語	本市	—	56.6
		県	—	54.4
		全国	—	56.0

本市において、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。

「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した小学生の割合は、全国に比べ低い、中学生の割合は高い。

「小学校国語を好き」と回答した割合は、全国に比べ低い、他の教科は高い。

(2) 学校に対する質問 【質問数 小学校64問 中学校80問】（質問文は一部省略）

教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか ※ 「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	98.7	92.3
	県	93.1	88.8
	全国	80.8	80.8

各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか ※ 「よく設けた」「どちらかといえば、設けた」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	94.8	87.2
	県	87.1	77.1
	全国	84.7	77.9

言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか ※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	98.7	89.7
	県	97.5	92.5
	全国	97.2	95.1

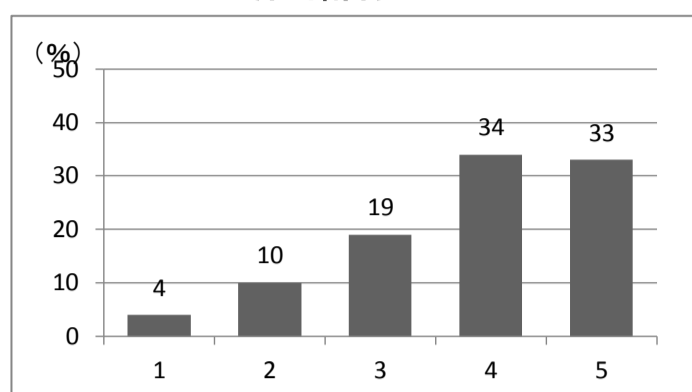
「ICTを活用した授業を行ったり、各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。

「言語活動について、各教科、道徳及び特別活動等を通じて、学校全体として取り組んだ」と回答した学校の割合は、全国に比べ、小学校は高く、中学校は低い。

Ⅲ 平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」結果正答率分布グラフ、課題、改善策

【小学校】

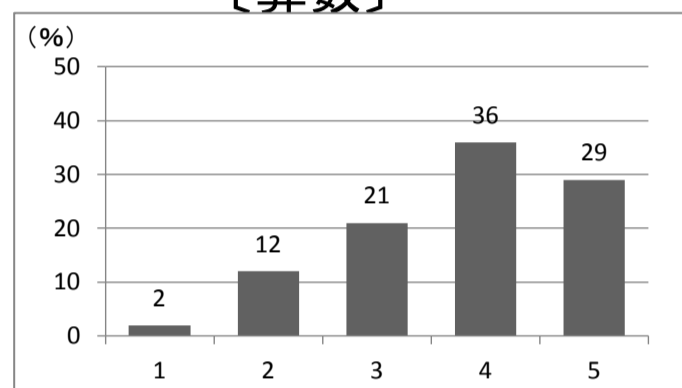
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、5の段階の割合は全国よりも高い状況が見られる。4、5の段階の割合は67%で、1、2、3段階の割合は33%である。個別指導を行い、中下位層を更に引き上げていく必要がある。
 ・情報を相手に分かりやすく伝えるために工夫された記述の仕方を理解することや、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られる。

〔算数〕

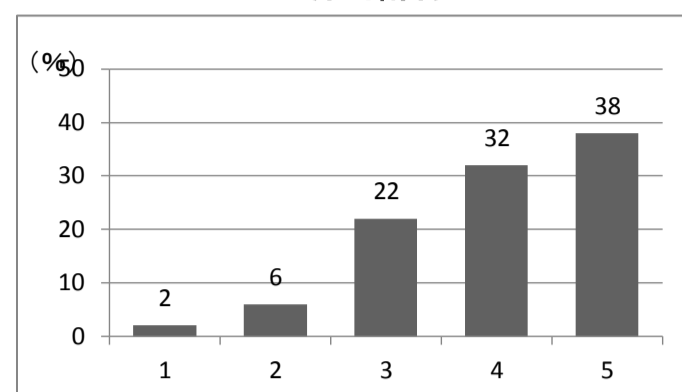


〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。4、5段階の割合は65%で、4段階の割合が最も高い。2、3段階の割合は33%で、中下位層を更に引き上げていく必要がある。
 ・示された除法の式の意味を理解することや二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られる。

【中学校】

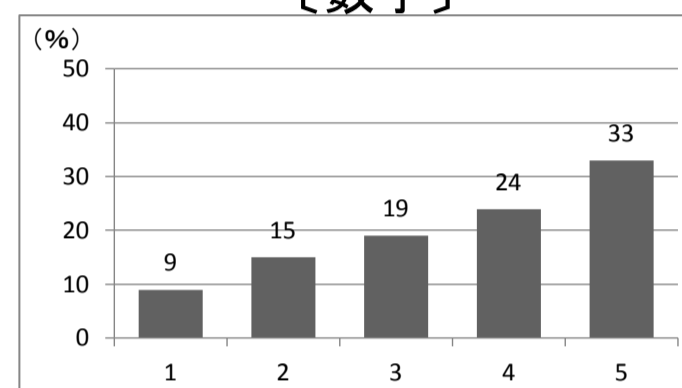
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。4、5段階の割合は70%で、1、2、3段階の割合は30%である。個別指導を行い下位層を更に引き上げる必要がある。
 ・話合いの話題や方向を捉えることや、相手に分かりやすく伝わる表現について理解することに課題が見られる。

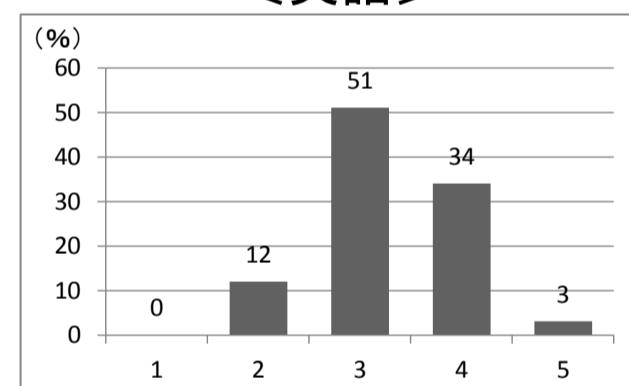
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。4、5段階の割合は57%で、5段階の割合が最も高い。2、3段階の割合は34%で、中下位層を更に引き上げていく必要がある。
 ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件の理解やグラフ上の2点のy座標の差について、事象に即して解釈することに課題が見られる。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。4、5段階の割合が37%で、3の段階51%よりも低く、中位層を引き上げることで、上位層を増やす必要がある。
 ・情報を正確に聞き取ることや、与えられた情報に基づいて正確な英文で表現すること、考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに課題が見られる。

【改善策】

- 以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として引き続き取り組んでいく。
- 諸学力検査結果の課題や対策を冊子等にまとめ、各学校へ情報提供し、これらを基に管理職研修会や校内研修会等、各種研修会で共通した指導の実施
 - 校内研修や研修会等に指導主事を積極的に派遣し、以下の重点に基づく指導・助言
 - ア 各学力調査問題の研究
 - イ 各学校での課題に応じた共通実践事項の設定
 - ウ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - エ 習得状況の見届けの徹底
 - 「かごしま学力向上支援Webシステムの単元・領域別評価問題」等の積極的な活用の推進
 - 質問紙調査の結果と学力調査結果の相関を分析し、学力向上に生かすための方策の検討
- また、以下の内容を各学校の学力向上策として、特に重点的に取り組むよう指導する。
- 〔小学校〕(国語科) 相手や目的に応じて、適切な記述の仕方を考えたり、図表やグラフを用いて効果的に書いたりする活動の充実
 - (算数科) 資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したりする活動の充実
 - 〔中学校〕(国語科) 実際に記録を取ったり、話合いの途中で、話合いの仕方を見直しながらか進めたりする活動の充実
 - (数学科) 与えられた情報を読み、事象の結果を数学的に解釈したり、問題解決の方法を数学的に説明したりする活動の充実
 - (英語科) 読んだり聞いたりした情報の大切な部分を正確に理解し、自らの考えを整理してまとまりのある文章で表現する活動の充実

※正答率分布グラフの各教科の段階は、以下のとおりです。

小 国語 「1」:0~2問	「2」:3~5問	「3」:6~ 8問	「4」: 9~11問	「5」:12~14問
小 算数 「1」:0~2問	「2」:3~5問	「3」:6~ 8問	「4」: 9~11問	「5」:12~14問
中 国語 「1」:0~1問	「2」:2~3問	「3」:4~ 6問	「4」: 7~ 8問	「5」: 9~10問
中 数学 「1」:0~3問	「2」:4~6問	「3」:7~ 9問	「4」:10~12問	「5」:13~16問
中 英語 「1」:0~2問	「2」:3~7問	「3」:8~13問	「4」:14~18問	「5」:19~21問

IV 学力調査分析（国語、算数・数学、英語）

1 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について

	出題の趣旨 領域等【全国との比較】
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える。 書くことウ 1二【-3.2】 目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。 書くことウ 1三【-3.7】 ※ 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。 伝統事項(1)ウ 1四(2)【+6.2】 ※ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。 話すことエ 3三【+7.9】
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 話合いの話題や方向を捉える。 話すこと1才 2一【-1.5】 相手に分かりやすく伝わる表現について理解する。 話すこと1ウ 2二【-2.0】 ※ 封筒の書き方を理解して書く。 伝統的事項(2)ア 1四【+1.9】 ※ 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。 書くことウ 3二【+3.8】

(2)

本市国語科の課題

- 話合いの参加者として、質問の意図を捉えることなどに課題がある。
- 段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てることなどに課題がある。

(1) 国語科の調査結果

小学校においては、全ての領域等で、全国、県の正答率を上回る。また、問題形式についても、全て、全国、県の正答率を上回る。特に短答式では10%以上、上回っている。中学校においては、全ての領域で県の正答率を上回るが、「話すこと・聞くこと」で1.3%、「読むこと」で0.2%全国の正答率を下回る。また、問題形式については、選択式で全国の正答率を0.2%下回るが、他については、短答式、記述式共に、全国、県の正答率を上回る。

項	小学校	中学校
本市正答率	68	73
全国正答率	63.8	72.8
全国比	+4.2	+0.2

- (3) 課題を示す特徴的な問題
- 【小学校 問題1二】
《話合いの参加者として、質問の意図を捉える問題》
二 高橋さんは、「2」 公衆電話にはどのような使い方や特徴があるのか」の中で、公衆電話の使い方や特徴について、くふうして書いています。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 情報を整理して伝えるために、ことばを分けて並べて書いている。
 - 2 自分の考えを強調するために、同じ言葉をくり返して書いている。
 - 3 自分の考えのもととなる事実を示すために、図や表を用いて書いている。
 - 4 相手の理解を助けるために、使い方の手順にしたがって書いている。
- 【小学校 問題1三】
《目的に応じて必要な情報を捉える問題》
三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の□に「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。□に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。
(条件)
○ 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
○ 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。
- 調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。
なぜなら、◆

【本市正答率】25.1% (全国比-3.7)

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力が必要である。【報告する文章】は「1 はじめに」「2 調査の内容と結果」「3 調査の結果をもとに考えたこと」という構成で書かれている。それぞれの段落の内容を捉え、条件を読み取り、書く練習が必要となってくる。

【本市正答率】60.2% (全国比-3.2)

高橋さんが、公衆電話の使い方や特徴について、情報を整理して伝えるために、事柄を並べて書いていることを捉える必要がある。選択肢2~4もそれぞれ記述の仕方の工夫として捉えられるため、工夫の意図を確認していく必要がある。

【中学校 問題2-1】

《話し合いの話題や方向を捉えることができるか問う問題》

第一中学校の生徒会役員の山下さんたちは、「地域とのつながりを大切にしたい文化祭にするために」という議題で話し合っています。次は、「話し合いの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

（議題）
 地域とのつながりを大切にしたい文化祭にするために
 一 生徒会が地域で行っていること
 二 高齢者向けの施設での交流会の様子
 三 地域の清掃活動の様子
 四 展示や発表を見に来てくださる方への配慮

「生徒会が地域で行っていること」についての話し合いは、この二つにします。次は、「展示や発表を見に来てくださる方への配慮」について考えましょう。

場面①における山下さんの発言は、話し合いの中でどのような役割を果たしていますか。【選択肢】

《中学校 問題2-2》
 《相手に分かりやすく伝える表現について理解を問う問題》

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん
 山下さん

倉田さん
 達成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりでいいと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていなくていいことがあります。

A

場面③の倉田さんの発言について説明したものと最も適切なものを次から一つ選びなさい。【選択肢】

【本市正答率】67.7% (全国比-2.0)
 倉田さんは、西野さんの「校内に点在している」という発言を「美術室や～」と具体的に言い換えて確認しながら自分の考えを述べている。選択肢は、話し合いを進展させたり、目的に沿った話し合いにするための発言である。学習の際、発言の意図や働きを振り返る必要がある。

【本市正答率】78.9% (全国比-1.5)
 山下さんの発言は、話し合いの記録を基にして、これまでの話し合いの結論を示したり、これから話し合う内容を明らかにしたりする役割を果たしている。選択肢にある停滞している場面、意見が整理されていない場面、話し合いの仕方を相互に評価する場面での役割を理解させる必要がある。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

小・中学校共に、国語は社会で役立つと考えている生徒が約90パーセントいる。学んだことを普段の生活の中で活用しようとしていると答えた生徒は小学生77.2%、中学生72.9%である。
 小・中学校共に国語の有用性を感じている。授業の中で、実生活との関連を意識させながら、汎用的な資質能力を育成、活用する場面を設定する。

(5) 改善のポイント・実践例

- 【小中共通】
 - 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行う「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善。
 - 児童生徒の学力の実態把握や過去の分析を行い、定着の不十分な問題等に意図的に取り組ませる授業の実践。
 - 実生活の様々な場面を踏まえた言語活動を位置付ける授業の実践。
 - 問題解決型の課題を設定し、解決に向けて話し合い、表現する学習活動の実践。

番号	質問内容		本市	全国比
小40	将来、社会で役に	小	89.6	-1.6
中43	立つと思うか。	中	90.2	2.2
小41	普段の生活で活用	小	77.2	0.3
中44	しているか。	中	72.9	1.3

- 【小学校】
 - 事実を客観的に書く、文末表現に気を付けて書くなど、事実と考えとを区別して書く活動を行う。
 - 調べた目的と、調べた結果に基づく自分の考えとがずれることのないよう、自分の考えを確かめる学習活動を設定する。
- 【中学校】
 - 小学校での学習を踏まえ、司会の進め方や話し合いの記録の仕方などを確認した上で、実際に記録を取りながら話し合いを行うなどの活動を設定する。その際、途中で話し合いの仕方を見直しながら進める場面を設定する。

(6) 問題別調査結果

※ 空欄に貴校のデータを書き込み、全国や本市と比較してください。

小学校 国語

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	本校	本市	全国(公立)	本校	本市
1一	図表やグラフなどを用いた目的を捉える		5・6 エ					○			70.0	71.2		0.8	0.5
1二	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫の工夫を捉える		5・6 ウ					○			60.2	63.4		8.5	5.9
1三	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く		5・6 ウ			○		○			25.1	28.8		1.8	3.8
1四(1)ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う				5・6 (1)ウ (ア)				○		57.2	41.9		4.3	8.2
1四(1)イ					5・6 (1)ウ (ア)				○		67.5	69.4		12.1	12.1
1四(1)ウ					5・6 (1)ウ (ア)				○		61.0	35.6		2.1	4.9
1四(2)	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く				3・4 (1)イ (ク)				○		54.0	47.8		7.1	11.3
2一(1)	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む			5・6 ウ				○			80.5	80.7		1.0	1.4
2一(2)				5・6 ウ		○		○			77.2	75.9		3.1	5.0
2二	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む			5・6 イ				○			88.4	88.5		3.8	4.2
3一	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする	5・6 エ						○			82.6	81.3		2.5	3.4
3二	目的に応じて、質問を工夫する	5・6 エ						○			70.7	67.4		3.1	4.2
3三	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	5・6 エ				○	○				76.1	68.2		7.9	14.2
3四	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる				3・4 (1)ア (イ)				○		77.1	73.0		5.5	7.9

※ 空欄に貴校のデータを書き込み、全国や本市と比較してください。

中学校 国語

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	本校	本市	全国(公立)	本校	本市
1一	文章の構成や展開, 表現の仕方について, 根拠を明確にして自分の考えをもつ			2ウ				○			63.1	63.9		0.1	0.1
1二	文章の展開に即して情報を整理し, 内容を捉える			1イ				○			60.7	61.5		0.0	0.1
1三	文章に表れているものの見方や考え方について, 自分の考えをもつ			1オ	○			○			92.3	91.2		1.1	1.7
1四	封筒の書き方を理解して書く			1(2)ア					○		58.7	56.8		4.5	5.6
2一	話合いの話題や方向を捉える	1オ				○					78.9	80.4		0.1	0.2
2二	相手に分かりやすく伝える表現について理解する	1ウ				○					67.7	69.7		0.2	0.3
2三	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	1オ			○	○					60.1	60.4		8.0	8.9
3一	書いた文章を読み返し, 論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する		2エ				○				88.9	87.4		0.4	0.4
3二	伝えたい事柄について, 根拠を明確にして書く		1ウ		○		○				81.6	77.8		6.1	7.9
4	語の一部を省いた表現について, 話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する			1(1)イ(ウ)				○			80.7	78.7		1.5	1.2

2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について

(1) 算数・数学科の調査結果

小学校では、全国の平均正答率とほぼ同じであった。中学校では、全国の平均正答率を上回った。

項	算数	数学
本市正答率	67	61
全国正答率	66.6	59.8
全国比	+0.4	+1.2

(2) 本市算数・数学科の課題

- 二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述することなどに課題が見られた。
- グラフ上の2点のy座標の差について事象に即して解釈することなどに課題が見られた。

【全国との比較】	
小学校・算数	<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフから、2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを読み取ることができる。 2(2)【-3.4】 資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。 2(3)【-2.0】 示された除法の式の意味を理解している。 3(4)【-2.8】 <p>※ 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できる。 3(2)【+4.7】</p>
中学校・数学	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。 2【-1.4】 グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる。 6(1)【-1.3】 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。 7(1)【-2.3】 <p>※ 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。 8(1)【+9.8】</p>

(3) 課題を示す特徴的な問題

【小学校6年 問題3(4)】

1800÷6 は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ問題

(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

問題
リボンを0.6 m買ったときの代金が180円でした。 このリボン1 m分の代金は、いくらですか。

1 m分の代金は180÷0.6の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

$$\begin{array}{l}
 180 \div 0.6 = \square \\
 \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\
 1800 \div 6 = 300
 \end{array}$$

変わらない

だから、180÷0.6の答えの□は、300です。

1800÷6は、何m分の代金を求めている式といえますか。

下のあからえまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

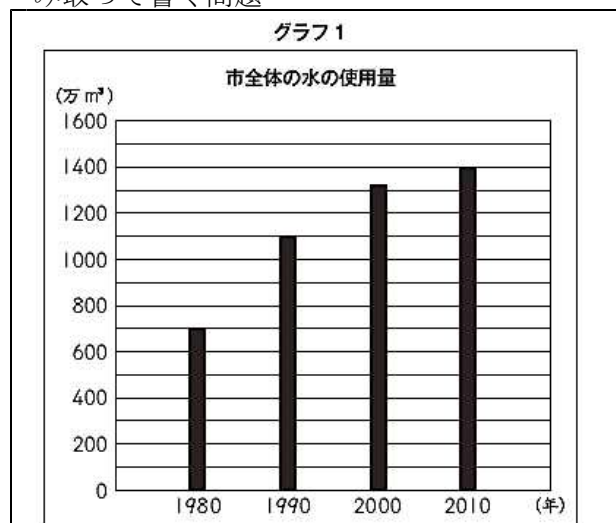
- あ 0.6 m分の代金
- い 1 m分の代金
- う 6 m分の代金
- え 10 m分の代金

【本市正答率】 44.2% [全国比-2.8]

「6 m分の代金」と誤った解答した児童が24.2%おり、1800÷6の式の除数の6に着目して、6m分の代金を求めていると誤って捉えていると考えられる。計算に関して成り立つ性質を活用して計算した際、それぞれの式が何を表しているのかを振り返ることが大切である。

【小学校6年 問題2(2)】

2010年の市全体の水の使用量が1980年の市の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く問題



(2) グラフ1の、2010年の市全体の水の使用量は、1980年の市全体の水の使用量の約何倍ですか。

答えを書きましょう。

【本市正答率】 75.2% [全国比-3.4]

「7」と誤った解答した児童が、8.1%おり、目盛りの数をそれぞれ数えて14と7とし、その差の7を解答していると考えられる。資料の特徴や傾向を読み取る際には、目的に応じて、差を求めたり、何倍かを求めたりすることで、資料の中の数量の大きさの関係を読み取ることができるようになることが大切である。

【中学校3年 問題7】(1)

証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題

(1) 予想1が成り立つことは、次のように証明することができます。

証明

△ABFと△CBEにおいて、
 正方形の4つの辺はすべて等しいから、
 $AB = CB$ ……①
 点E, Fはそれぞれ辺AB, BCの中点だから、①より、
 $BF = BE$ ……②
 共通な角だから、
 $\angle ABF = \angle CBE$ ……③
 ①, ②, ③より、 がそれぞれ等しいから、
 $\triangle ABF = \triangle CBE$
 合同な図形の対応する辺は等しいから、
 $AF = CE$

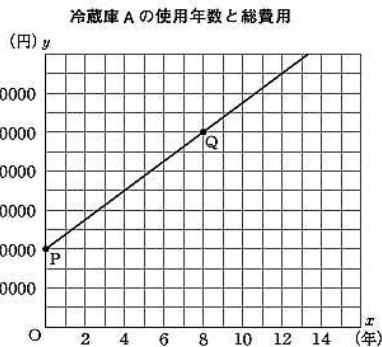
上の証明の に当てはまる言葉を書きなさい。

【本市正答率】 73.5% [全国比-2.3%]

「3組の辺」等と誤った解答があり、三角形の合同条件を正しく理解していないと考えられる。証明を読み、根拠を見いだすとともに、その根拠に仮定がどのように用いられているかを確認する場面を設定し、三角形の合同条件を指摘できるようにすることが大切である。

【中学校3年 B問題6】(1)

冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、2点のy座標の差が表すものを選ぶ問題



このグラフにおけるx座標が0である点をP、x座標が8である点をQとします。点Pのy座標と点Qのy座標の差は、冷蔵庫Aについての何を表していますか。下のAからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

【本市正答率】 37.5% [全国比-1.3%]

「購入して8年間使用するときの総費用」と誤って解答した生徒が46.2%おり、y軸が使用したときの総費用を表すことから、y座標の差も使用したときの総費用を表していると誤って捉えていると考えられる。問題解決において用いたグラフの上の2点のy座標の差を事象に即して解釈する活動を取り入れることで、グラフを事象に即して解釈できるようにすることが大切である。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

【児童・生徒質問紙の結果 (%)】

- ① 算数・数学の勉強は好きですか
- ② 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき、役に立つと思いますか

	番号	本市	全国	全国比 (H30)
算数	①	72.3	68.6	+3.7 (+6.9)
	②	91.7	92.5	-0.8 (-1.1)
数学	①	61.1	57.9	+3.2 (+1.6)
	②	80.4	76.2	+4.2 (+2.7)

(本市児童・生徒の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合)

「算数・数学に対する興味・関心」について、小学校は全国を3.7ポイント上回ったが、これは昨年度より3.2ポイント低い。中学校は全国を3.2ポイント上回ったが、これは昨年度より1.6ポイント高い。中学校は増加傾向が見られる。

「社会での有用性」について、小学校は全国を0.8ポイント下回ったが、これは、昨年度より0.3ポイント高い。中学校は、全国を4.2ポイント上回ったが、これは昨年度より1.5ポイント高い。中学校は増加傾向が見られる。

(5) 授業改善のポイント

ア 算数・数学共通

- 新学習指導要領において、算数・数学の世界と日常生活を往還させながら定着を図ることが示されており、生活の事象を数学的に考える活動を授業に採り入れることが大切である。
- 問題解決的な学習を単元に位置付け、解決の見通しをもたせ、自分で考え、その考えを周りに説明し共有する活動を重視し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。

イ 算数

- 計算をする際には、必要に応じて、数の相対的な大きさを捉えたりするなど、数を多面的に見て、計算に関して成り立つ性質を活用することで、計算を能率的にするために工夫することが大切である。
- 日常生活において、目的に応じて、必要な資料を収集し、グラフから資料の特徴や傾向を読み取れるとともに、複数の資料の特徴等を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄についても判断することができるようにすることが大切である。

ウ 数学

- 様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいかを説明、検討する活動を充実することが大切である。
- ある結論が、成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、それを数学的に表現する活動を充実することが大切である。

(6) 問題別調査結果

※ 空欄に貴校のデータを書き込み、全国や本市と比較してください。

小学校 算数

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)		
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	本校	本市	全国(公立)	本校	本市	全国(公立)
1 (1)	台形について理解している			4(1) アイ				○		94.7	93.1		0.1	0.1	
1 (2)	図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる			4(1) イ 5(1) イ				○		58.7	60.3		0.3	0.6	
1 (3)	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる		5(1) ア					○		47.2	43.9		5.0	6.7	
2 (1)	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる				3(3) ア			○		95.4	95.2		0.1	0.2	
2 (2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる	4(3) イ			3(3) ア			○		75.2	78.6		0.6	1.0	
2 (3)	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる		5(4) ア		3(3) ア			○		50.1	52.1		2.0	2.0	
2 (4)	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	4(5) ウ			4(2) ア			○		63.8	60.1		0.7	1.0	
3 (1)	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる	3(2) イウ						○		82.0	81.8		0.5	0.9	
3 (2)	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	3(2) ウ 4(3) エ						○		35.8	31.1		7.7	10.8	
3 (3)	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる	4(3) イエ						○		74.6	74.9		1.5	2.1	
3 (4)	示された除法の式の意味を理解している	5(3) アイウ			3(1)			○		44.2	47.0		1.6	2.2	
4 (1)	目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる				4(1)			○		84.1	82.7		1.4	1.7	

4 (2)	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる	3(3) イ					○			68.4	68.6		3.1	4.4
4 (3)	場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる		5(4) ア		5(1) ア		○			63.5	62.6		3.1	3.5

※ 空欄に貴校のデータを書き込み、全国や本市と比較してください。

中学校 数学

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)		
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	本校	本市	全国(公立)	本校	本市	全国(公立)
1	数の集合と四則計算の可能性について理解している	1(1) ア						○		67.0	62.2		0.0	0.2	
2	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ウ					○			68.7	70.1		5.1	5.1	
3	平行移動の意味を理解している		1(1) イ					○		84.5	83.6		0.4	0.7	
4	反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる			1(1) エ			○			49.5	48.9		9.6	10.4	
5	簡単な場合について、確率を求めることができる				2(1) ア		○			74.3	72.8		2.3	3.3	
6 (1)	グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる			2(1) イ, エ			○			37.5	38.8		0.2	0.3	
6 (2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2(1) イ, エ			○			34.2	34.7		10.2	11.6	
7 (1)	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している		2(2) ア					○		73.5	75.8		4.8	5.2	
7 (2)	反例の意味を理解している		2(2) イ					○		77.7	77.2		0.4	0.5	

7 (3)	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる		2(2) ウ					○				52.9	53.3		18.4	17.6
8 (1)	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる				1(1) ア				○			67.7	57.9		7.6	10.6
8 (2)	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる				1(1) イ				○			43.2	40.8		18.2	21.3
8 (3)	問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる				1(1) ア, イ				○			53.3	53.6		0.8	1.0
9 (1)	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	2(1) イ, ウ							○			59.6	57.4		8.8	9.5
9 (2)	事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ, ウ							○			62.5	59.7		16.0	17.8
9 (3)	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる	2(1) イ, ウ							○			69.9	69.6		2.2	1.9

3 調査の結果から見える本市外国語科(英語)教育の課題について

(1) 英語の調査結果

全国の平均正答率を2.0ポイント上回った。

本市正答率	58
全国正答率	56.0
全国比	+2.0

(2) 本市英語の課題

- ・ まとまった量の英文の聞き取りにおいて、聞きたい情報をはっきりさせて、それに関連する英語表現に注意を払って聞き取ることに課題が見られた。
- ・ 与えられた情報や会話の流れを理解し、文法事項等の知識を活用して正しく文を書くことに課題が見られた。
- ・ 基本的な語や文法事項等の知識が身に付いておらず、コミュニケーションに支障を来さないよう正しく書き表すことに課題が見られた。

【全国との比較】

- ・ 外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する。 **1(3) 【-2.4】**
 - ・ 与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文(ペットを飼っていないこと)を書く。 **9(3)③ 【-3.3】**
 - ・ 学校を表す二つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く。 **10 【-0.1】**
- ※ 家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する。
1(4) 【+5.2】
- ※ 文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する。
9(1)① 【+5.4】

(3) 課題を示す特徴的な問題

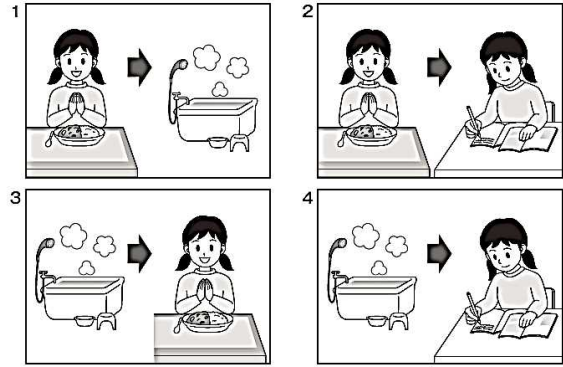
【1(4)】

日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題

1 (放送問題)

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

(4) <家での会話>



スクリプト

(4) 家での会話

A: I'm so hungry.

B: Today's dinner is curry and rice. It will take about thirty minutes to cook.
Do you have any homework today?

A: No, I don't.

B: Then take a bath before dinner.

A: OK.

【本市正答率】67.0% [全国比+5.2]

まとまった量の英文を聞き取る中で、take a bath before dinnerという鍵となる情報の時間の前後関係及びその内容を把握できず、聞こえてきた情報の順序で内容を捉えていることに課題がある。

【4】

聞いて把握した内容について、適切に答えることができるかどうかをみる問題

4 (放送問題)

英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

スクリプト

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

【本市正答率】8.3% [無解答43.9%]

部活動についてのアドバイスを求められていることを理解できていないか、アドバイスを伝える際に語順や綴りの誤り、動詞の欠落など語や文法事項等の誤りがあったり、適切な英語が思い浮かんでいなかったりすることが考えられる。まとまった英文を聞く中で把握した内容について、相手に伝わる英語で適切に表現することに課題がある。

【9】(3)③

与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができるかどうかをみる問題

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①・②は省略

③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×
---	------------------------	---

【本市正答率】 34.1% [全国比 - 3.3]

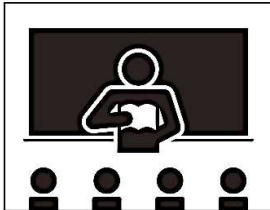
与えられた情報から3人称単数現在時制であることを踏まえて、一般動詞の否定文を正確に書くことに課題がある。

【10】

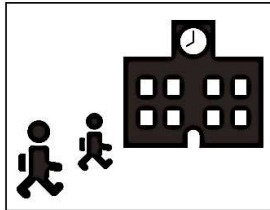
与えられたテーマについて考えを整理し文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題

10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)のうち、どちらがよいかウェブサイトで見聞を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【A】



【B】



※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (, や ? など) は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

【本市正答率】 1.7% [全国比 - 0.1]

基本的な語や文法事項等の知識を活用することに課題があり、与えられたテーマについてまとまりのある文章を書く時において、相手に伝わる英語で表現することができていない。しかし、25語以上の英語で書いている生徒の割合は48.8%であり、問われていることが分かれば、自分の考えなどを伝えようとする粘り強さや意欲が見られる。

(4) 生徒質問紙との関連

【生徒質問紙の結果 (%)】

(62) 1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか

(63) 1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか

番号	本市	全国	全国比
(62)	59.5	62.9	-3.4
(63)	76.2	77.2	-1.0

(本市生徒の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」割合)

「(62) 自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動」について、全国を下回っており、改善が必要である。

「(63) まとまった内容を英語で発表する活動」についても、全国を下回っており、改善が必要である。

(5) 授業改善のポイント

聞くことの指導においては、必要な情報を聞き取るために、話されることの全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、場面設定を理解させ聞きたい情報が何かをはっきりさせた上で、それに関連する英語表現に注意を払って聞き取る力を身に付けさせることが大切である。

文法の理解を深める指導については、生徒の文法に対する気付きを促すのに十分な量の英語を聞いたり読んだりした上で、得た知識を聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの中で、自分の考えや気持ちなどを表現する活動につなげて繰り返し練習するなどの工夫が必要である。

書くことの指導においては、I、You以外の主語を用いて書くことで、英語の文、文構造や文法を、的確に活用する必要が生じる。調べたり、インタビューしたりしたことについて説明や報告をする、絵や写真の様子を表現するなどの言語活動を通して、3人称を用いて客観的に事実を伝える力を養うことが重要である。

(6) 問題別調査結果

※ 空欄に貴校のデータを書き込み、全国や本市と比較してください。

中学校 英語

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)		
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	本校	本市	全国(公立)	本校	本市	全国(公立)
1 (1)	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (1)						○		94.0	91.1		0.0	0.2	
1 (2)	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (1)						○		91.8	88.6		0.0	0.1	
1 (3)	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (1)						○		69.9	72.3		0.0	0.2	
1 (4)	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (1)						○		67.0	61.8		0.1	0.2	
2	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	(オ)						○		74.2	71.8		0.0	0.2	
3	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	(オ)						○		83.6	82.0		0.0	0.2	
4	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	(ウ)						○		8.3	7.6		43.9	42.3	
5 (1)	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(1)				○		79.7	79.4		0.1	0.2	
5 (2)	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(1)				○		76.9	74.4		0.1	0.2	
5 (3)	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(1)				○		74.6	73.1		0.3	0.4	
6	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる			(ウ)				○		65.6	62.9		0.2	0.4	
7	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる			(ウ)				○		34.3	32.8		1.0	1.0	

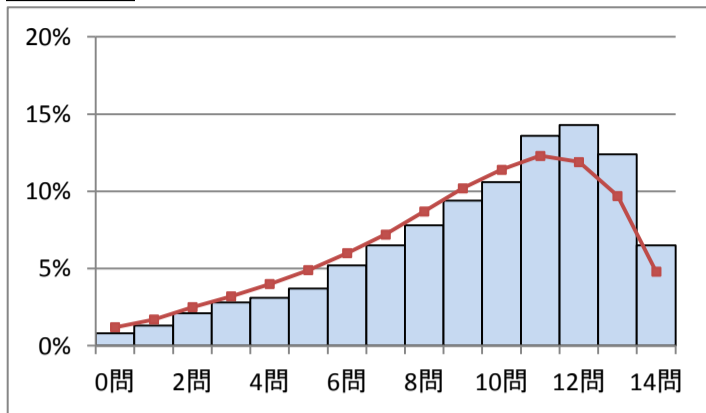
8	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる			(オ)				○		14.7	10.9		25.4	27.9
9 (1) ①	文の中で適切に接続詞を用いることができる			(ア) (イ)				○		85.3	79.9		0.1	0.3
9 (1) ②	文の中で適切に接続詞を用いることができる			(ア) (イ)				○		62.0	58.2		0.3	0.5
9 (2) ①	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる			(ア) (イ)				○		73.6	73.6		3.3	4.4
9 (2) ②	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる			(ア) (イ)				○		32.4	28.9		11.1	12.6
9 (3) ①	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる			(ア) (イ)				○		52.9	53.5		5.1	6.4
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる			(ア) (イ)				○		31.8	32.9		8.2	9.3
9 (3) ③	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる			(ア) (イ)				○		34.1	37.4		8.7	10.5
10	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる			(オ)				○		1.7	1.8		6.7	8.3

4 正答数分布グラフ

(※横軸: 正答数、縦軸: 児童生徒数の割合 ※棒グラフ: 鹿児島市、折れ線グラフ: 全国)

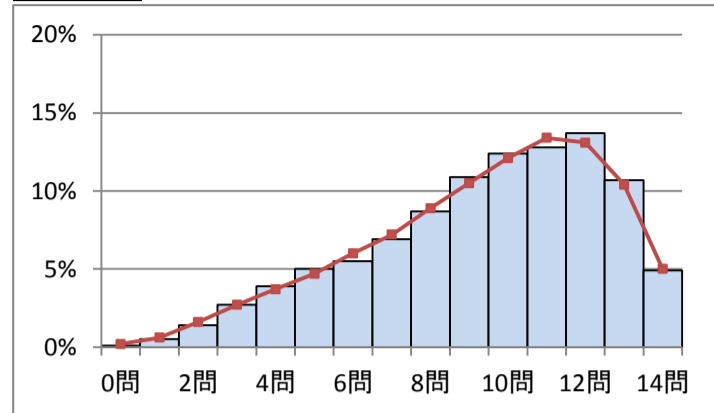
小学校

国語



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	9.5 / 14	68	10	3.3
全国	8.9 / 14	63.8	10	3.4

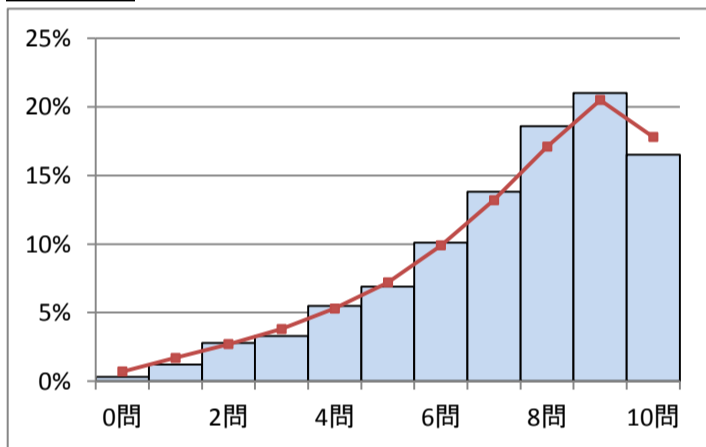
算数



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	9.4 / 14	67	10	3.1
全国	9.3 / 14	66.6	10	3.1

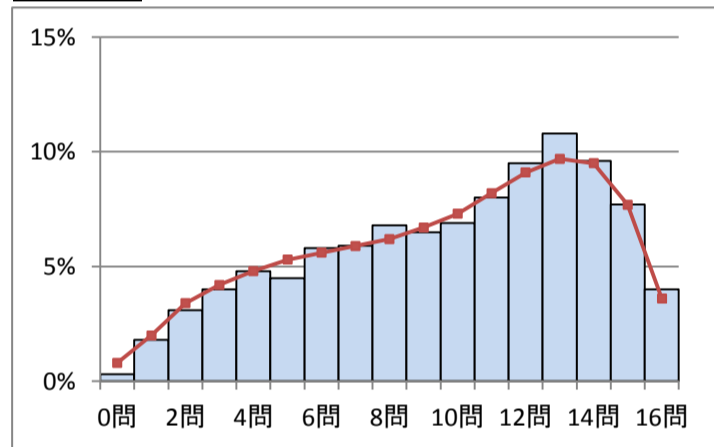
中学校

国語



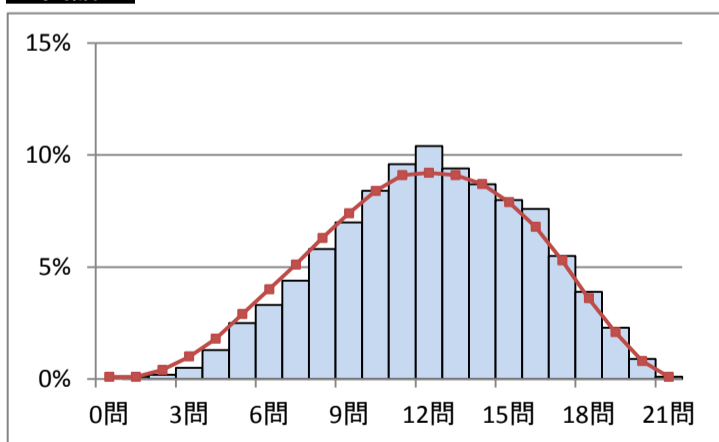
	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	7.3 / 10	73	8	2.3
全国	7.3 / 10	72.8	8	2.4

数学



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	9.8 / 16	61	10	4.1
全国	9.6 / 16	59.8	10	4.2

英語



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	12.1 / 21	58	12	3.8
全国	11.8 / 21	56	12	3.9

〈用語の説明〉

中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
標準偏差	集団のデータを平均値からの離れ具合(散りばりの度合い)を表す数値。標準偏差が小さいときは平均値のまわりにデータが集まっていて、大きいときは散らばっているといえる。また、標準偏差が0であるということは、ばらつきがない(データの値が全てが同じ)ことを意味する。

※ [平均値] - [標準偏差] 以上 [平均値] + [標準偏差] 以下にデータ全体の約68%が含まれているといわれています。

例えば、本市の小学校国語について、平均正答数が9.5、標準偏差が3.3であるので、6.2問(約6問)から12.8問(約13問)の間に、本市の小学6年生の約68%が含まれているということがいえます。

V 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉

児童生徒及び学校に対する質問紙から特徴的なものを抜粋しました(単位は%)。

空欄に貴校のデータを書き込み(入力)、全国や本市と比較してください。

児童生徒に対する質問紙調査結果の空欄には、貴校の割合(%)を、学校質問紙調査結果の空欄には、①～④等の回答を書き込み(入力)、比較しましょう(エクセルデータをSee-Smile(グループウェア)でも配信します。)

□の中に【分析・対策】を簡潔に書きましょう(全て記入する必要なし〈対策の重点化〉)。

- ・ 上段は、「よく行った」「どちらかといえば行った」等、肯定的な回答した割合
- 下段は、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合
- ・ ↑は、昨年度と比較し、2ポイント以上上回っていたもの、↓は、2ポイント以上下回っていたもの(上段のみ)
- ・ ※は、昨年度、質問項目になかったもの

【児童生徒に対する質問紙調査結果〈抜粋〉】

基本的な生活習慣等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
1 朝食を毎日食べていますか		95.1	-0.2		95.0	1.9
		85.8	-0.9		85.1	2.8
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		↑ 80.4	-1.0		↑ 81.2	3.2
		34.5	-4.4		34.3	0.7
3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか		↑ 90.9	-0.7		↑ 94.3	1.5
		57.0	-1.7		58.5	1.5
4 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか		↓ 79.2	1.8		78.8	2.4
		51.5	1.4		48.4	2.0

【分析・対策】

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
5 自分には、よいところがあると思いますか		↓ 80.4	-0.8		↓ 72.9	-1.2
		34.1	-4.7		25.9	-3.1
6 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか		↑ 85.1	-1.0		81.3	-0.2
		41.3	-1.8		27.3	-4.0
※7 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか		93.2	1.5		85.7	1.1
		62.6	3.1		36.0	-1.3
8 将来の夢や目標を持っていますか		87.0	3.2		72.9	2.4
		71.4	5.5		48.6	3.7
※9 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか		94.9	-0.3		94.6	0.7
		79.6	0.1		77.5	1.9
※10 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか		78.3	-0.7		69.5	-0.8
		28.7	-1.4		19.7	-2.8

※11	学級みんなで話し合っ て決めたことなどに協 力して取り組み、うれし かったことがありますか		83.2	-0.9		83.3	0.5
			43.1	-2.7		44.0	-1.4
※12	学校に行くのは楽しい と思いますか		87.5	1.7		84.3	2.4
			58.3	4.4		48.7	3.0
13	学校のきまり（規則） を守っていますか		↑ 92.6	0.3		96.8	0.6
			45.8	-0.9		66.8	0.0
※14	人が困っているときは、 進んで助けていますか		88.9	1.0		87.7	1.8
			39.8	-0.6		33.9	-0.7
15	いじめは、どんな理由が あってもいけないことだ と思いますか		97.3	0.2		96.1	1.0
			85.4	0.4		80.5	2.2
16	人の役に立つ人間にな りたいと思いますか		95.7	0.5		95.7	1.4
			75.9	1.2		74.7	3.6

【分析・対策】

学習習慣等に関すること

質問事項	小学校			中学校			
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比	
17	家で自分で計画を立て て勉強をしていますか		↑ 69.8	-1.7		↑ 53.8	3.4
			30.0	-3.1		14.2	-0.7
18	学校の授業時間以外に、 普段（月曜日から金曜 日）、1日当たりどれくら いの時間、勉強をします か（学習塾で勉強してい る時間も含む） ◆上段は、1時間以上と回 答した割合 下段は、2時間以上と回 答した割合		↓ 69.9	3.8		↓ 77.1	7.3
			29.3	0.0		45.2	9.7
19	学校の授業時間以外に、 普段（月曜日から金曜 日）、1日当たりどれくら いの時間、読書をしませ んか（教科書や参考書、 漫画や雑誌は除く） ◆上段は、30分以上と回 答した割合 下段は、1時間以上と回 答した割合		43.5	3.7		↓ 33.4	6.4
			19.3	1.0		13.6	1.2
※20	昼休みや放課後、学校が 休みの日に、本（教科書 や参考書、漫画や雑誌は 除く）を読んだり、借り たりするために、学校図 書館・学校図書室や地域 の図書館にどれくらい 行きますか ◆上段は、週に1回以上と 回答した割合 下段は、週に4回以上と 回答した割合		32.8	15.6		16.7	8.4
			8.5	5.0		4.2	2.1
※21	読書は好きですか		79.3	4.3		74.7	6.7
			47.4	3.1		42.8	3.9
22	新聞を読んでいますか ◆上段は、ほぼ毎日、週 に1～3回程度と回答し た割合 下段は、ほぼ毎日と回答 した割合		16.7	-2.3		12.3	-0.4
			5.5	-1.5		3.8	-0.6

【分析・対策】

地域や社会に関わる活動の状況等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
23 今住んでいる地域の行事に参加していますか		↑ 69.2	1.2		↑ 51.1	0.5
		38.9	1.7		20.1	-0.9
24 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか		↑ 54.2	-0.3		35.4	-4.0
		18.0	-0.9		8.6	-2.9
※25 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか		70.3	1.7		63.5	1.1
		41.1	1.9		33.8	0.8
※26 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか		78.7	2.6		60.8	1.5
		49.9	3.2		25.7	-0.1

【分析・対策】

I C Tを活用した学習状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※小27 前学年までに受けた授業で、コンピュータなどのI C Tをどの程度使用しましたか		33.0	2.4		44.0	13.4
※中30 ◆上段は、週1回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		9.3	-1.1		7.6	0.6
※小28 授業でもっとコンピュータなどのI C Tを活用したいと思いますか		87.3	0.8		82.2	3.9
	※中31	60.7	-0.1		51.4	3.4

【分析・対策】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小29 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか		↓ 75.2	1.1		↓ 72.1	-0.7
	中32	30.6	0.3		25.8	-2.5
※小30 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか		83.3	0.5		75.8	0.9
	※中33	39.1	0.2		24.6	-2.3
※小31 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか		68.7	3.0		61.4	-0.1
	※中34	28.1	3.0		17.3	-3.0
※小32 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか		71.0	-3.0		65.7	-5.9
	※中35	24.2	-5.9		18.1	-7.2
※小33 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか		71.7	-1.7		63.5	-2.1
	※中36	27.6	-1.2		17.2	-3.8
※小34 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか		84.8	3.9		75.9	-0.7
	※中39	49.2	7.1		31.7	-2.3

小35 中37	5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	↑ 78.4	0.7		↑ 75.9	1.1
		32.3	-0.7		28.3	-1.0
小36 中38	5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	57.7	-4.8		48.1	-7.7
		21.1	-3.6		13.8	-4.3

【分析・対策】

部活動の状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※中27 ◆学校の部活動に参加していますか 上段は、参加していると回答した割合 下段は、参加していないと回答した割合	—	—	—		75.0	-12.5
	—	—	—		24.8	12.4
※中28 ◆普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか 上段は、2時間以上と回答した割合 下段は、3時間以上と回答した割合	—	—	—		49.0	-4.0
	—	—	—		6.1	-3.9

【分析・対策】

【学校質問紙調査結果〈抜粋〉】

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※8 調査対象学年の児童生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか		83.1	-8.0		87.1	-2.2
		10.4	-15.7		17.9	-4.4
9 調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか		85.7	-2.0	↓	94.8	0.7
		19.5	-19.3		33.3	-19.9
※10 調査対象学年の児童生徒は、礼儀正しいと思いますか		89.6	1.8		94.9	1.4
		18.2	-10.7		35.9	-4.7
11 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか		92.2	9.0		100.0	1.4
		20.8	0.0		33.3	-16.2
12 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか		96.1	-0.5	↑	97.4	2.2
		41.6	-8.8		41.0	-4.9
13 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか		98.7	1.8		100.0	1.9
		58.4	0.6		64.1	0.3
14 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか		98.7	-0.1		100.0	1.4
		55.8	-4.0		51.3	-3.8
小50 中64 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童生徒に対する授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか	↑	98.7	3.6	↓	87.2	-5.4
		37.7	-2.4		20.5	-18.3

【分析・対策】

カリキュラム・マネジメントなど、学校運営の取組状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
15 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか		↑ 100	4.9		↑ 97.4	6.1
		39.0	4.4		20.5	-8.6
16 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか		98.7	5.0		↑ 92.3	4.2
		40.3	3.2		23.1	-8.1
17 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか		↑ 98.7	3.3		↓ 84.6	-8.8
		40.3	3.0		17.9	-16.0
18 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか		100	3.6		↑ 87.1	0.2
		36.4	-10.5		17.9	-11.5
19 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか		↑ 98.7	1.5		↑ 89.7	-5.4
		40.3	-6.5		33.3	-9.1
20 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか		↑ 100	4.7		100.0	6.3
		23.4	-19.5		23.1	-12.5
21 学校として業務改善に取り組んでいますか		↓ 94.8	-3.7		↓ 94.9	-2.9
		36.4	-11.9		23.1	-24.3
※中22 部活動のあり方について、保護者や地域と連携して見直しを進めていますか		—	—		89.8	-1.7
		—	—		15.4	-28.0

【分析・対策】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小32 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか		↑ 92.2	6.7		↓ 74.4	-8.2
		5.2	-11.7		23.1	8.6
※小33 調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか		98.7	9.4		87.1	-2.0
		18.2	-10.9		25.6	-7.1
※小34 調査対象学年の児童生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか		92.2	-2.3		76.9	-16.3
		24.7	-15.5		12.8	-24.0
※小35 調査対象学年の児童生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか		90.9	-2.2		84.7	-6.7
		20.8	-14.1		10.3	-20.8

※小36 ※中39	調査対象学年の児童生徒に対して、特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか		96.1	-0.6		89.8	-2.8
			32.5	-7.7		15.4	-23.2
37	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか		↓ 89.6	0.3		↓ 84.6	-3.4
			23.4	1.2		17.9	-2.9
38	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか		↑ 94.8	10.1		87.2	9.3
			15.6	-2.5		15.4	0.9
【分析・対策】							

国語科の指導方法に関すること

質問事項	小学校			中学校			
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比	
※小39 ※中40	調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか		97.4	8.4		89.8	0.9
			40.3	8.4		23.1	-4.7
※小40 ※中41	調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか		75.3	12.9		64.1	-10.5
			11.7	2.5		25.6	10.5
※小41 ※中42	調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか		96.1	2.0		82.0	-7.0
			23.4	-10.6		20.5	-8.8
※小42 ※中43	調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか		96.1	3.3		97.5	2.2
			39.0	2.7		23.1	-21.0
※小43 ※中44	調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか		90.9	2.7		92.3	2.4
			23.4	-2.3		25.6	-5.9
※小44 ※中45	調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか		100	1.7		94.8	-3.5
			48.1	-6.2		53.8	-7.4
【分析・対策】							

算数・数学科の指導方法に関すること

質問事項	小学校			中学校			
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比	
小45 中46	調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか		↑ 98.7	2.2		↓ 97.4	3.1
			61.0	7.3		43.6	2.1
小46 中47	調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか		↑ 87.0	14.2		↑ 82.0	5.5
			26.0	9.1		25.6	6.5
小47 中48	調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか		83.1	0.7		↑ 84.6	6.5
			16.9	0.4		12.8	-2.4
小48 中49	調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか		100	2.3		↓ 97.4	0.8
			61.0	0.4		56.4	-0.9

【分析・対策】

英語科の指導方法に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※中50 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	—	—	—		89.7	-1.8
	—	—	—		25.6	-7.8
※中51 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	—	—	—		76.9	1.5
	—	—	—		20.5	2.3
※中52 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか	—	—	—		79.5	-7.7
	—	—	—		28.2	-2.0
※中53 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか	—	—	—		84.6	-6.3
	—	—	—		23.1	-9.8
※中54 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか	—	—	—		71.7	6.6
	—	—	—		17.9	-0.2
※中55 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか	—	—	—		64.1	-16.7
	—	—	—		20.5	-7.1
※中56 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を行いましたか	—	—	—		84.6	-3.0
	—	—	—		25.6	-3.1
※中57 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか	—	—	—		74.3	11.9
	—	—	—		12.8	-4.8
※中58 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか	—	—	—		71.8	8.3
	—	—	—		10.3	-2.8
※中59 調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点から、どの程度、授業を英語で行いましたか	—	—	—		76.9	-9.1
	—	—	—		17.9	-8.6
※中60 前年度までに、英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか	—	—	—		33.3	-15.0
	—	—	—		5.1	-7.8
※中61 年間の授業のうち、どのくらいの頻度でALT（外国語指導助手）を活用した授業を行いましたか ◆上段は、週に数回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合	—	—	—		51.3	13.0
	—	—	—		0.0	-8.5
※中62 英語担当教師とALT（外国語指導助手）との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか	—	—	—		94.9	1.5
	—	—	—		56.4	5.8

【分析・対策】

ICTを活用した学習状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小49 中63 調査対象学年の児童に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか ◆上段は、週1回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↑ 98.7	17.9		↑ 92.3	11.5
		83.1	46.0		43.6	0.3

【分析・対策】

小学校教育と中学校教育の連携に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小51 中65 前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか		↑ 71.4	6.4		↑ 66.7	-1.3
		13.0	-9.8		7.7	-18.4
※小52 ※中66 前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか		74.0	3.4		69.2	-7.0
		18.2	-10.6		7.7	-26.6
小53 中67 平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか		↑ 62.3	1.7		↑ 41.0	-19.0
		11.7	-7.9		7.7	-13.0

【分析・対策】

家庭学習に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小59 中73 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（教科共通）		93.5	1.3		92.3	5.3
		50.6	3.6		35.9	-1.0
小60 中74 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（教科共通）		↑ 100	4.5		↓ 89.7	-2.6
		45.5	-4.4		28.2	-10.7

【分析・対策】

全国学力・学習状況調査等の活用に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小63 中79 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか		100	2.7		100.0	4.3
		31.2	-11.3		23.1	-11.4
小64 中80 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）		100	8.8		↑ 100.0	12.5
		35.1	-1.8		33.3	-0.2

【分析・対策】

VI 全国学力・学習状況調査と鹿児島学習定着度調査における児童生徒質問紙調査の結果

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査と平成30年度鹿児島学習定着度調査における同じ質問を抜粋しました。

鹿児島学習定着度調査実施時から、全国学力・学習状況調査実施時までの児童生徒の回答の推移を見ることができます。

上段の表が平成30年度鹿児島学習定着度調査、下段の表が平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査になっています。

1 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

	小5		中1		中2	
	市	県	市	県	市	県
	H30	H30	H30	H30	H30	H30
① している。	28.1%	28.1%	16.8%	17.5%	13.3%	13.4%
② どちらかといえばしている。	37.6%	37.7%	40.7%	40.5%	37.1%	37.1%
③ あまりしていない。	25.6%	25.3%	34.2%	33.2%	39.3%	38.9%
④ していない。	8.6%	8.9%	8.3%	8.8%	10.3%	10.6%
①と②の和	65.7%	65.8%	57.4%	58.0%	50.4%	50.5%

	小6		中3	
	市	県	市	県
	H31	H31	H31	H31
① している。	30.0%	31.0%	14.2%	14.2%
② どちらかといえばしている。	39.8%	39.8%	39.6%	39.2%
③ あまりしていない。	24.4%	23.6%	37.4%	37.3%
④ していない。	5.8%	5.4%	8.8%	9.2%
①と②の和	69.8%	70.8%	53.8%	53.4%

2 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。)

	小5		中1		中2	
	市	県	市	県	市	県
	H30	H30	H30	H30	H30	H30
① 3時間以上。	10.0%	7.8%	9.2%	7.4%	10.3%	7.5%
② 2時間以上3時間より少ない。	18.8%	18.6%	24.1%	23.8%	29.1%	24.2%
③ 1時間以上2時間より少ない。	42.2%	45.9%	41.4%	43.7%	37.0%	41.9%
④ 30分以上1時間より少ない。	21.0%	20.5%	17.8%	18.2%	16.0%	17.7%
⑤ 30分より少ない。	5.6%	5.2%	5.4%	5.1%	5.2%	5.9%
⑥ 全くしない。	2.3%	2.0%	2.0%	1.7%	2.5%	2.8%
④、⑤、⑥の和(1時間より少ない)	28.8%	27.7%	25.2%	25.0%	23.6%	26.4%

	小6		中3	
	市	県	市	県
	H31	H31	H31	H31
① 3時間以上。	11.0%	8.0%	13.1%	9.3%
② 2時間以上3時間より少ない。	18.3%	18.8%	32.1%	27.1%
③ 1時間以上2時間より少ない。	40.6%	44.7%	31.9%	38.1%
④ 30分以上1時間より少ない。	22.2%	21.3%	14.5%	16.8%
⑤ 30分より少ない。	5.7%	5.2%	5.8%	6.2%
⑥ 全くしない。	2.2%	2.0%	2.4%	2.5%
④、⑤、⑥の和(1時間より少ない)	30.1%	28.5%	22.7%	25.5%

3 授業中に、自分で考えたり、自分から進んで活動に取り組んだりしていますか。

	小5		中1		中2	
	市	県	市	県	市	県
	H30	H30	H30	H30	H30	H30
① よくしている。	24.1%	26.2%	21.3%	22.1%	18.5%	18.9%
② どちらかといえばしている。	52.1%	51.8%	50.8%	51.6%	51.8%	52.5%
③ あまりしていない。	21.9%	20.3%	25.5%	23.9%	26.6%	25.6%
④ していない。	1.7%	1.6%	2.2%	2.1%	3.0%	2.8%
①と②の和	76.2%	78.0%	72.1%	73.7%	70.3%	71.4%

※ 全国学力・学習状況調査では、「前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」

	小6				中3	
	市	県			市	県
	H31	H31			H31	H31
① 当てはまる。	32.3%	32.2%			28.3%	27.1%
② どちらかといえば、当てはまる。	46.1%	46.5%			47.6%	47.8%
③ どちらかといえば、当てはまらない。	17.9%	17.7%			19.9%	20.7%
④ 当てはまらない。	3.6%	3.4%			4.2%	4.3%
①と②の和	78.4%	78.7%			75.9%	74.9%

4 授業中に、先生から教えてもらったことや友達と話し合ったことなどを通じて、自分の考えを広げたり深めたりすることができていますか。

	小5		中1		中2	
	市	県	市	県	市	県
	H30	H30	H30	H30	H30	H30
① よくしている。	23.7%	25.7%	22.5%	23.8%	22.2%	21.4%
② どちらかといえばしている。	48.8%	48.3%	50.5%	49.3%	50.3%	50.4%
③ あまりしていない。	24.6%	23.0%	23.9%	23.8%	24.0%	24.8%
④ していない。	2.7%	2.9%	2.9%	2.9%	3.5%	3.2%
①と②の和	72.5%	74.0%	73.0%	73.1%	72.4%	71.8%

※ 全国学力・学習状況調査では、「学級の友達(生徒)話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

	小6				中3	
	市	県			市	県
	H31	H31			H31	H31
① 当てはまる。	30.6%	30.0%			25.8%	25.8%
② どちらかといえば、当てはまる。	44.6%	44.8%			46.3%	46.7%
③ どちらかといえば、当てはまらない。	20.0%	20.2%			21.5%	21.2%
④ 当てはまらない。	4.7%	5.0%			6.3%	6.2%
①と②の和	75.2%	74.8%			72.1%	72.5%

5 授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かすことができていますか。

	小5		中1		中2	
	市	県	市	県	市	県
	H30	H30	H30	H30	H30	H30
① よくできている。	33.5%	33.8%	21.8%	21.8%	18.3%	17.2%
② どちらかといえばできている。	48.2%	48.0%	51.2%	50.8%	49.2%	50.1%
③ あまりできていない。	16.4%	16.2%	23.9%	24.4%	28.5%	28.7%
④ まったくできていない。	1.7%	1.8%	2.8%	2.8%	3.9%	3.8%
①と②の和	81.7%	81.8%	73.0%	72.6%	67.5%	67.3%

※ 全国学力・学習状況調査では、「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」

	小6				中3	
	市	県			市	県
	H31	H31			H31	H31
① 当てはまる。	39.1%	38.6%			24.6%	23.6%
② どちらかといえば、当てはまる。	44.2%	45.3%			51.2%	51.4%
③ どちらかといえば、当てはまらない。	13.9%	13.7%			20.7%	21.2%
④ 当てはまらない。	2.8%	2.4%			3.4%	3.7%
①と②の和	83.3%	83.9%			75.8%	75.0%

6 自分には、よいところがあると思いますか。

	小5		中1		中2	
	市	県	市	県	市	県
	H30	H30	H30	H30	H30	H30
① あると思う。	31.4%	29.7%	26.4%	26.0%	24.6%	23.8%
② どちらかといえばあると思う。	38.8%	39.3%	42.0%	41.1%	41.7%	41.6%
③ あまりないと思う。	23.4%	24.3%	24.7%	25.9%	26.8%	27.8%
④ まったくないと思う。	6.3%	6.5%	6.7%	6.8%	6.8%	6.6%
①と②の和	70.2%	69.0%	68.4%	67.1%	66.3%	65.4%

	小6				中3	
	市	県			市	県
	H31	H31			H31	H31
① 当てはまる。	34.1%	33.0%			25.9%	24.5%
② どちらかといえば、当てはまる。	46.3%	46.2%			47.0%	47.7%
③ どちらかといえば、当てはまらない。	13.7%	15.0%			20.3%	20.7%
④ 当てはまらない。	5.8%	5.8%			6.8%	7.0%
①と②の和	80.4%	79.2%			72.9%	72.2%

7 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

	小5		中1		中2	
	市	県	市	県	市	県
	H30	H30	H30	H30	H30	H30
① 認めてくれる。	39.5%	40.8%	36.7%	37.2%	31.2%	31.0%
② どちらかといえば認めてくれる。	44.2%	44.0%	48.8%	48.4%	51.9%	51.9%
③ あまりないと思う。	12.4%	11.7%	10.9%	10.8%	13.1%	13.1%
④ まったくないと思う。	3.7%	3.4%	3.3%	3.4%	3.6%	3.5%
①と②の和	83.7%	84.8%	85.5%	85.6%	83.1%	82.9%

	小6				中3	
	市	県			市	県
	H31	H31			H31	H31
① 当てはまる。	41.3%	41.2%			27.3%	27.4%
② どちらかといえば、当てはまる。	43.8%	44.1%			54.0%	54.3%
③ どちらかといえば、当てはまらない。	11.6%	11.5%			14.5%	14.5%
④ 当てはまらない。	3.2%	3.2%			3.7%	3.7%
①と②の和	85.1%	85.3%			81.3%	81.7%

8 将来の夢や目標をもっていますか。

	小5		中1		中2	
	市	県	市	県	市	県
	H30	H30	H30	H30	H30	H30
① もっている。	73.5%	74.0%	52.7%	53.1%	45.6%	45.9%
② どちらかといえばもっている。	15.5%	15.1%	23.2%	22.7%	26.7%	26.2%
③ あまりもっていない。	7.6%	7.6%	17.3%	17.2%	20.2%	20.4%
④ まったくもっていない。	3.2%	3.2%	6.7%	6.8%	7.4%	7.3%
①と②の和	89.0%	89.1%	75.9%	75.8%	72.3%	72.0%

	小6				中3	
	市	県			市	県
	H31	H31			H31	H31
① 当てはまる。	71.4%	71.8%			48.6%	48.4%
② どちらかといえば、当てはまる。	15.6%	16.1%			24.3%	24.2%
③ どちらかといえば、当てはまらない。	7.8%	7.2%			17.2%	17.7%
④ 当てはまらない。	5.1%	4.9%			9.9%	9.6%
①と②の和	87.0%	87.9%			72.9%	72.6%

Ⅶ 学力向上について

今回、調査の行われました教科について、平成29年度に告示された新学習指導要領での「教科の目標」と「学習指導を進めるための留意点・配慮事項」を掲載しました（平成31年度「初任者のための教育実践の手引」（鹿児島市教育委員会）より抜粋）。

「平成30年度鹿児島学習定着度調査結果及び対策」の「Ⅵ 今後の対策－主体的・対話的で深い学びを実現するために－」（鹿児島市教育委員会）も併せて活用してください。

国語

1 目標及び内容

【小学校】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【中学校】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語科の各学年の内容は、〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の二項目に分けられており、その構成は以下のとおりである。

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

- (A) 話すこと・聞くこと
- (B) 書くこと
- (C) 読むこと

2 学習指導を進めるための留意点・配慮事項

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

単元などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考え方を深める学習の充実を図るよう工夫する。

(2) 語彙指導の改善・充実

語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図るよう留意する。

(3) 情報の扱い方に関する指導の改善・充実

急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている。こうした資質・能力の育成に向け、「情報と情報の関係」と「情報の整理」の二つの系統について学習指導を進めるよう留意する。

(4) 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

ただ活動するだけの学習にならないよう、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのか、学習過程を整理する。また、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を意識して指導に当たるよう留意する。

(5) 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

「伝統的な言語文化」、「言葉の由来と変化」、「書写」、「読書」に関する指導事項が「我が国の言語文化に関する事項」として整理されているので、指導に当たって留意する。

算数・数学

1 目標

【算数】

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。

(2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。

(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

① 「数学的な見方・考え方を働かせ」について

「数学的な見方・考え方」のうち、「数学的な見方」については、「事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること」である。また、「数学的な考え方」については、「目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、根拠を基に筋道を立てて考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら、統合的・発展的に考えること」である。以上のことから、算数科における「数学的な見方・考え方」は、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること」である。

② 「数学的活動を通して」について

数学的活動とは、事象を数理的に捉えて、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行することである。算数科においては、「日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考えたりする」ことと、「算数の学習場面から問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考えたりする」ことの二つの問題発見・解決の過程が相互に関わり合っている。これらを基盤として、各場面で言語活動を充実させ、それぞれの過程や結果を振り返り、評価・改善することができるようにすることが大切である。

③ 「数学的に考える資質・能力を育成すること」について

「数学的に考える資質・能力」とは、算数科の教科目標に示された三つの柱で整理された算数・数学教育で育成を目指す力のことである。これらの資質・能力は、「数学的な見方・考え方」を働かせた数学的活動によって育成されるもので、算数の学習はもとより、他教科等の学習や日常生活等での問題解決に生きて働くものである。また、育成された資質・能力は「数学的な見方・考え方」の成長にも大きな影響を与えるものである。

【数学】

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

① 「数学的な見方・考え方を働かせ」について

「数学的な見方・考え方」のうち、「数学的な見方」については、「事象を数量や図形及びそ

これらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること」である。また、「数学的な考え方」については、「目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、論理的に捉え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら、統合的・発展的に考えること」である。以上のことから、数学科における「数学的な見方・考え方」は、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること」である。数学的な見方・考え方を働かせた学習活動は、数学的に考える資質・能力を育成する多様な機会を与えるとともに、数学や他教科の学習、日常や社会において問題を論理的に解決していく場面などでも広く生かされるものである。

② 「数学的活動を通して」について

数学的活動とは、事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行することである。数学的活動を通して問題を発見・解決していく過程には、日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する過程と、数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する過程の二つが考えられる。これら二つの過程は相互に関わり合って展開されるので、教師は、これらの二つの過程を意識しつつ、生徒が目的意識をもって遂行できるようにすることが大切である。

なお、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現するために、その主要な側面として、「日常の事象や社会の事象から問題を見だし解決する活動」、「数学の事象から問題を見だし解決する活動」、「数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動」の三つを数学的活動として各学年の内容として示している。

③ 「数学的に考える資質・能力を育成すること」について

「数学的に考える資質・能力」とは、数学科の目標で示された三つの柱で整理された算数・数学教育で育成を目指す力のことである。これらの資質・能力は、「数学的な見方・考え方」を働かせた数学的活動を通して、三つの柱をバランスよく育成することが必要である。

④ 数学科の目標(1)～(3)に示された資質・能力について

(1)については、資質・能力の柱の中の「知識及び技能」に関わるものである。これらの知識及び技能については、数学的活動を通じた概念や原理・法則の理解に裏付けられた発展性のある生きて働く知識及び技能として身に付けさせていくことが必要である。

(2)については、資質・能力の柱の中の「思考力、判断力、表現力等」に関わるものである。

これらの力は、様々な事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する過程を遂行することを通して養っていくことが重要である。また、数学の事象を問題解決する際に、「他に分かること」、「条件を変えたらどうなるか」、「問題の考察範囲自体を広げたらどうなるか」、「類似な事柄の間に共通する性質を見いだせないか」などの新しい知識を得る視点を明確にして、統合的・発展的に考察する過程を通して養っていくことも重要である。その際、言葉や数、式、図、表、グラフなどの様々な表現を目的に応じて選択したり、表現を相互に関連付けたりしていくことが大切である。


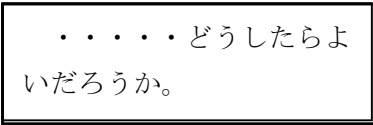
(3)については、資質・能力の柱の中の「学びに向かう力、人間性等」に関わるものである。

ここでは、数学は楽しい、数学は面白いと実感し、数学が得意であるという自己肯定的な態

度を養うことや数学を通して学んだことが生活や他教科等の学習において生かされることを実感させていく必要がある。また、問題解決する過程において、解決の方法や内容、順序を見直したり、自らの取組を客観的に評価したりすることも大切になってくる。

2 学習指導を進めるための留意点・配慮事項

(1) 授業の基本的な進め方の例（「1 単位時間の授業の流れ」～問題解決型の授業～）

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
つかむ	1 既習事項の確認をする。	○ 本時に関係する知識等について確認し、想起できるようにする。	既習学習の活用
	2 学習課題を受け止める。 	○ 課題すべき内容を理解させるために、具体物や図、数直線等を提示する。 ○ 課題の内容を言葉や図、式、表、グラフなどに表わしながら、分かっていることと分らないこと、問われていることなどを把握させる。	
	3 学習課題を設定する。 (めあて) 	○ 学習課題を分析的に捉えさせたり、試行させたりする中で、既習事項との違いや未習事項で解決したいことを明確にし、児童の思考を学習課題へと焦点化していく。	
見通す	4 解決の見通しについて考える。 「答えは◇ぐらいになりそう。」 「△△なやり方でできるかな。」	○ 意欲的に問題解決に取り組ませるために、結果がどうなるか、予想させる。 ○ 解決方法について見通しをもたせるために既習の学習内容を振り返らせる。その際、これまでの学習を想起させたり、活用できる知識や考え等を掲示するなど、解決方法が思いつきやすいようにしておく。 ○ 見通しをもちやすくするために、ペアで話し合う場を設定する。	
調べる	5 自分なりの考えや方法で自力解決する。	○ 児童の状況を的確に把握するために、計画的に机間指導をする。 ○ 多様な考え方を追究させるために、複数の解決方法を見付けさせる。	
深める	6 相互解決に取り組む。 (1) 発表し、考え方を話し合う。 (2) 話し合いで分かったことをまとめる。 (3) 友達の方法でもやってみる。	○ 多様な考えに触れさせ、考えを深めさせるために、内容に応じて、ペア、グループで話し合わせる。 ○ 話し合いをさせる場合は、観点を明確にして話し合わせるようにする。	課題の解決

振り返る	7 適用問題をする。 <u>(本時の活用)</u>	○ 解決方法のよさを実感させるために、類似問題に取り組みさせる。 ○ 理解を更に深めるために、解決方法を生かせる場面や問題等について考えさせる。	本時の学習の活用
	8 本時を振り返り、次時の学習について考える。 (自己評価) …振り返りの学習	○ 授業についての感想や取り組みたいことなどを発表させる中で、本時の学習について考え方のよさや取り組んだ態度のよさなどを振り返らせる。	

※ 評価の観点「算数への関心・意欲・態度」、「数学的な考え方」、「数量や図形についての技能」、「数量や図形についての知識・理解」の4観点と重点化したい指導内容から一つか二つにしぼる。

※ 本時の評価については、本時の目標に関わる内容が明確に表れる場面で、児童生徒の学習状況を捉える。

※ 児童生徒が目的意識をもって主体的に取り組む活動となるようにするために、数学的活動を設定する。

(2) 学習指導上の工夫・改善

ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

単元などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数・数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図る。

イ 数学的活動を通して学習指導を進めること

数学的活動は、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けたり、思考力、判断力、表現力等を高めたり、算数を学ぶ事の楽しさや意義を実感したりするために、重要な役割を果たすものである。各領域に示す全ての事項において、数学的活動を通じた指導を行うことが大切である。

(ア) 数学的活動を楽しめるようにする機会を設けること

(イ) 算数・数学の問題を解決する方法を理解するとともに、自ら問題を見だし、解決するための構想を立て、実践し、その結果を評価・改善する機会を設けること

(ウ) 具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図る機会を設けること

(エ) 友達と考えを伝え合うことで学び合ったり、学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感したりする機会を設けること

ウ 障害のある児童への指導や支援を一層充実していくこと

障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが大切である。

外国語科

1 目標

【中学校】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(1)については、基礎的・基本的な知識を確実に習得しながら、既存の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる概念となるようにする。また、個別の技能のみならず、獲得した個別の技能が自分の経験やほかの技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくようにする。

(2)の「思考力、判断力、表現力等」の育成には、外国語を実際に使用することが不可欠であることから、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を設定し、生徒が理解し、外国語で表現し伝え合う力を育成するための学習過程の改善・充実を図るようにする。

(3)の「学びに向かう力、人間性等」は、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」と不可分に結び付いている。生徒が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導が大切である。

2 学習指導を進めるための留意点・配慮事項

(1) 配慮事項

ア 小学校や高等学校における指導との接続に留意しながら学年ごとの目標を適切に定め、3学年を通して英語の目標の実現を図る。

イ 言語材料は、学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導する。

ウ 音声指導は、ALTの協力等を得ながら日本語との違いに留意し、発音練習などを通して継続的に指導する。必要に応じて発音表記を用いて指導することもできる。

- エ 文字指導では、生徒の学習負担に配慮しながら筆記体を指導することもできる。
- オ 語、連語及び慣用表現については、運用度の高いものについて、繰り返し言語活動を行うなど、活用することを通して定着を図るようにする。
- カ 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにする。
- キ コンピュータや情報通信ネットワーク、教育機器等の活用で生徒の興味・関心を高め、言語活動の充実を図る。また、ALT等の協力で国際理解教育の推進を図り、ペアワークやグループワークなどの学習形態を工夫する。

(2) 教材選定の観点

- ア 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
- イ 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。
- ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。